

それ神道は 正直を以て体となし

敬愛を以て心となし

無事を以て行となす

中江 藤樹 とうじゆ

神道の教えの

「正直」を実現するには

愛(包容・調和)と

敬(慎しみ)の精神のもと

誤ちの無いように

日々実行することである

中江藤樹

江戸時代前期の儒学者。近江国の人で、その家塾を藤樹書院と称し実践的な神道を重んじた。その高潔な人柄から近江聖人と呼ばれた。藤樹がその独特な神道観を説き始めるのは三十一歳以降の事で最晩年にあたる。儒教の礼法は日本の神道祭儀と一致するという神儒合一論へと展開していき、著書『翁問答』の中で、これを「太虚神道」と呼んでいる。藤樹の神道観は、弟子の洲岡山により、特に会津地方に根付いていった。

「茅の力」 ちがや への誘ひ いざな 神道知識へ

茅ちがやの輪に使う植物の事を茅ちがやと言います。イネ科チガヤ属の植物でススキ、アシ等を指します。「世界最強の雑草」と言われるほど生命力が強く、葉には抗菌作用があり笹の葉同様に食べ物の腐敗を防ぐ効果があります。

また古くから屋根の材料として利用され茅葺かやぶき屋根は涼しく吸音性が高く過ごしやすい利点があると共に、葺き換えの際に良い部分を再利用でき、不要な茅は畑の有機肥料に転用できます。これは自然への畏れ・恵への感謝という神道に基づく日本人の暮らしの循環です。茅の輪をくぐり祓い清め、清々しい心でお過ごしください。

神社は心のふるさと

未来に受け継つぐごう「美しい国うるわぶり」

